

質量分析技術者 近畿ブロック研究会の紹介 part4

安達廣^{*1}、市原敏雄^{*1}、福田和夫^{*1}、山田等^{*1}、千原容子^{*1}、藤原久美子^{*1}、守口寛^{*1}、松崎剛^{*1}、黒野定^{*1}、伊藤彰厚^{*1}、塚本潤子^{*2}、西川嘉子^{*2}、山村美香^{*2}、倉田理恵^{*2}、西山有理子^{*2}、久本泰明^{*3}、八田博司^{*3}、塩田憲司^{*3}、山口加乃子^{*3}、桑田啓子^{*3}、藤橋明子^{*3}、秋元直茂^{*3}、江藤哲治^{*3}、渡邊祐三^{*3}、犬塚真弓美^{*3}、大西宣昭^{*4}、四方真由美^{*4}、小川奈津美^{*4}、森友子^{*5}、牧野由美子^{*5}、牧田誠二^{*6}、下中智美^{*7}、○三宅里佳^{*7}、吉田裕美^{*8}、三上恭訓^{*8}、楠本朋一郎^{*9}、佐川幾子^{*10}、衣笠晋一^{*11}、瀧雅人^{*12}、山本かおり^{*12}、長子晴美^{*13}、山道桂子^{*14}、守田麻由子^{*15}、丹松美由紀^{*16}、堀山志朱代^{*17}、藤嶽美穂代^{*18}、宮部麻耶子^{*19}、吉野健一^{*20}、角田淳吾^{*20}、小西理美^{*21}、多田宏子^{*22}

^{*1}大阪大学、^{*2}奈良先端科学技術大学院大学、^{*3}京都大学、^{*4}京都工芸繊維大学、^{*5}基礎生物学研究所、^{*6}分子科学研究所、^{*7}大阪市立大学、^{*8}東北大学、^{*9}九州工業大学、^{*10}徳島大学、^{*11}産業技術総合研究所、^{*12}名古屋工業大学、^{*13}島根大学、^{*14}東京工業大学、^{*15}京都府立医科大学、^{*16}鳥取大学、^{*17}武庫川女子大学、^{*18}大阪薬科大学、^{*19}熊本大学、^{*20}神戸大学、^{*21}愛媛大学、^{*22}岡山大学

1.はじめに

大学及び大学共同機関等の技術系職員で質量分析に関わっている方に声をかけ、質量分析に携わる技術職員のスキルアップを目指し、各々が特定のテーマについて専門的な知識および技術を持ち寄り、討論や情報交換を行うことで、互いの技術力の向上、技術開発を図ることを目的として「質量分析技術者 近畿ブロック研究会」を発足、平成18年度2回、平成19年度に1回研究会を開催した。富山大学で開かれた平成19年度機器・分析技術研究会において会の紹介を行った。また、平成20年2月に基礎生物学研究所で開かれた第19回生物学技術研究会においても会の紹介を行った。その後、第4回研究会を昨年7月に開催し平成20年度京都大学総合技術研究会において第3および4回研究会の紹介を行った。平成22年度機器・分析技術研究会において、平成21年8月に大阪大学で開催された第5回研究会および平成22年7月に京都大学で開催された第6回技術研究会の紹介を行った。今回は、平成21年9月に開かれた日本質量分析学会第118回質量分析関西談話会「質量分析技術者の知恵袋」において会のメンバーが発表した内容について紹介する。

2.日本質量分析学会第118回質量分析関西談話会「質量分析技術者の知恵袋」

日本質量分析学会関西談話会世話人の方より、依頼を受け、質量分析技術者近畿ブロック研究会のメンバーで日本質量分析学会員でもある山田氏、福田氏、桑田氏、西川氏、塚本氏、安達氏、三宅氏で相談し、発表内容を検討した。以下のテーマ（仮題）をもとに当日会場に参加できる山田氏、桑田氏、西川氏、塚本氏、安達氏、三宅氏で実際に発表を行った。

「大学の技術職員が関わっている取り組みの紹介（仮題）」

「測定にまつわるエピソードの紹介（仮題）」

「教育支援としての自主測定講習について（仮題）」

「質量分析技術者近畿ブロック研究会の紹介（仮題）」

発表内容については、ポスターで紹介する。

3.メーリングリストについて

これまでの報告でも紹介しているが、第1回質量分析技術者近畿ブロック研究会終了後翌日に、会のメーリングリストは大阪大学の福田氏により作成された。以後のミーティングを進めるにあたりおおいに役立っている。また、このメーリングリストでの内容は、『機器・分析技術研究会メーリングリスト』と同じくメンバーにはバックナンバーの閲覧も可能になっている。日本質量分析学会第118回質量分析関西談話会「質量分析技術者の知恵袋」において発表した内容について

ても、福田氏の作成した会のホームページに掲載している。今後も、ちょっとした疑問を気軽に投げかけられる組織であり続けたいと願っている。

4.最後に

当初、開催場所も日帰りできることを考え、大阪・奈良・京都に限って18名でスタートしたが、メーリングリストでのやりとりなら多少遠くとも議論ができると考えを改め、現在51名にふくらんだ。ただし、「百聞は一見にしかず」で、会のメンバーが顔を合わせて意見交換をすることがもっとも有意義な方法と感じている。できれば、後々まで継続し参加した方が満足するだけでなく、その背後にいるユーザー(学生・教員)あるいは他の業務の技術職員へ還元できる内容でありたいと思っている。

5.参考文献

平成19年度機器・分析技術研究会 in 富山 報告集

第19回生物学技術研究会 報告集

平成20年度京都大学総合技術研究会 報告集

平成22年度機器・分析技術研究会 in 東京工業大学 報告集